

## 環境影響評価審査会風力発電所部会議事録

- 1 日時：平成18年7月18日（火）14:00～16:00
- 2 場所：神戸市教育会館501会議室
- 3 議題  
(1)CEF兵庫ウインドファーム事業に係る環境影響評価準備書の審査について
- 4 出席委員：山口部会長、朝日委員、大迫委員、北村委員、田中眞吾委員、藤井会長、遠藤委員、辻委員
- 5 事務局：嵐健康生活部環境管理局長  
環境影響評価室 勝野室長、鷲見課長補佐外室員3名
- 6 関係部局：自然環境保全課、大気課、森林動物共生室、治山課、森林保全室、景観形成室
- 7 事業者：CEF兵庫ウインドファーム株式会社
- 8 配布資料：  
会議次第  
出席者名簿  
補足資料 環境影響評価審査資料（イヌワシに係る影響評価結果）  
補足資料 環境影響評価審査資料（イヌワシの餌場創出に関する文献）  
補足資料 段ヶ峰地区周辺に生息する猛禽類調査報告書（第2回中間報告）（日本イヌワシ研究会兵庫地区）  
補足資料 森林基幹道整備事業猛禽類調査（抜粋）
- 9 議事概要  
事業者より6月までの猛禽類調査結果を見ても予定地の飛翔は少ないこと、バードストライクの事故例の報告はないこと等から影響は軽微である旨について説明  
(委員)事業者の調査でも飛翔は確認されており、頻度は低いかもしれないが、十数年の間にはぶつかるかと判断する。日本ではオジロワシのバードストライクがある。イヌワシは獲物を見つけた時に急降下するので、オジロワシ以上にぶつかる可能性は高い。残された一羽がバードストライクで死亡する可能性があるのなら、この場所での建設は、イヌワシに対して影響があると考えます。  
(事業者)スコットランドの風力発電の事例で、設置した段階で風車を避けている。当社は、オジロワシのいる所に風車を建てている。バードストライクも一例ある。調査を継続しており、オジロワシが風車を避け飛翔するように変わっている。委員が言われる不器用な種であるオジロワシにおいても避けていることが調査結果にはでている。  
(委員)(風車の)必要性は理解できるが、風が良いとの点だけで特定されている。イヌワシの衝突例がないことは事実か不明であるが、なぜそのようなことが起こらないのかの分析はできているのか。地形なり、人の営みなりで避けている可能性もあるのではないかと。生息しているのは間違いなく、何十年もあればぶつかるかと判断する。  
(事業者)イヌワシについて、先行の事業者が考慮していないかということ、現実的にイヌワシは衝突していない。どうしてぶつからないかは、相手が生物であり、自分で判断していると見るべきだと思う。現実的に日本固有の種のイヌワシが生息しており、衝突していないとの事実は、衝突するかもしれないよりは重いと思っている。

(委員) 工事用道路として、相当な幅の道路が作られる。

(事業者) 環境負荷の小さい風力発電所の建設を考えており、従来は7.5～8m幅の道路を今回は4.5～5m幅で行う。

(委員) 何も兵庫県で、しかもイヌワシのいる場所であることはない。代替地はある。

(事業者) 兵庫県では、代替案があるべきではないと言われるが、場所の選定時、この周辺で3カ所あった。自然公園から外れている山間地は少ない。もう一つは最初からイヌワシがいた。この場所を外すと、兵庫県では風車を建てる場所は極めてないに等しい。代替地は架空論である。兵庫県に大規模な候補地はないはずである。だから、この場所でやりたい。風があるからやりたいと言っている訳ではないので理解してほしい。

(事業者退席)

事務局より日本イヌワシ研究会兵庫地区報告及び森林基幹道整備事業猛禽類調査について報告